つばさの会 会報

No. 1
1978年
11月17日

第三回県ろうあ者体育祭迫る!!

来たる十一月十九日（日）午前九時半より鳴川中学校グラウンドにおいて、体育祭が催されます。この体育祭には、たくさんのろうあ者の方々及び各地域の手話サークル会員が参加します。私たちつばきの会におきましては、日頃の練習の成果を試し、また多いに反省させられる絶好の機会だと思われます。ぜひ皆さんに参加していただきたいと思います。

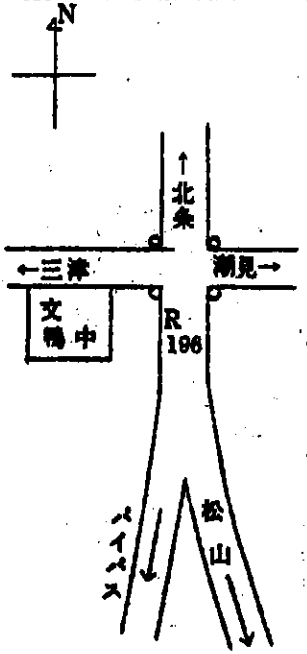
（注意事項）

イ、雨天の場合は体育館にて行います。

ロ、各自のお弁当と水筒をご持参下さい。

ハ、競技参加したい者は運動服とシューズをご持参下さい。

ニ、手話サークルの方は駐車できます。



追想

藤田昭子

私が手話を習い始めたのは、私の職業が日用雑貨商なので、色々な人がお客さんとして見えられます。もう五年前のことなのですが、ある日、一人の聾唖者の方が来られました。初めは現金であれこれ買っていただいたのがきっかけで二ケ月目には〇万〇千円の未払いになっていました。月末になりこの請求書を手渡す時に文盲と重なり、非常に困ったことでした。それが私にとって手話の必要性に迫られ、習い始めた動機なのです。

そして今、二年目を迎えようとしています。どうにか幼児が話し始めたカタコトが手話で話せるようになった頃、ある時、市役所での福祉会館建設について話し合いの通訳に参加した時、まねごとしかできなかった情なさ、又、今治まで同席した聾唖者に必要以上のことを話せなかったはがゆさ、今だに意志疎通の場合が多々にあります。十月中旬のスポーツ大会を目前に控えていますが、この度は私なりに頑張りたく思っています。

私達のサークルは、リーダー格が壁際程の学生さんなので、その面の教科の総ては専門的に教わり、用語はもちろん、より上達した技能を私達は学んでいます。このことは非常に有難く出席日などは厳固のまなざしで学んでいますが、豊富な話題に一日の疲れもふっとぶようです。

かっての〇万〇千円の借財人に会う機会もあったのですが、私はそれ以上のものをつかみ、多くの友人ができましたので、手話の授業料の一端としたいのです。

世の中は非常に早く移り変わっていく昨今、今や多重放送時代に入り日本語と外国語が同時に耳に入ってくる時手話も又、色々な映像の中に出てくることばとして取り上げられるよう期待したく思います。

そういう時体がやってくればいやおうなく福祉活動にも国民一体に義務づけられる世の中になるだろうと思っています。

（尚、藤田さんは婚姻のため、退会されました。）